

研究記録部門を 審査して

三浦会理研部長
六 沢 鉦 治

理科という教科が自然科学の
教科である。という事は今日
は最も否定する人達は少ないであ
ろうと思つてしまふ。その為の研究
であり、それらの記録であるのが
この部市科学展の中のこの部門で
ある。そのためには、視点は当然、
目的、方法、内容、成果等がそれ
ぞれの個性を持って記録されるべき
であらう。量と時間を費した労作
が必ずしも前述の自然科学の学際
本質に迫るとは言ひきれないので
ある。それと一つ、自然科学を
を教育する方法として、何を、何
の為に、どうして教えるか。とい
う問題がある。例へば、筑紫の研
究をするのに、雲の観察だけだ研
究者が対象というものを研究でき
るか? という事である。自然科
学の中でそれぞれの部門へ生物と
か地学とかにはそれぞれ体系と
か範囲とかがあるものがある。然
らば、何の為に、どうして研究
提条件を考へるならば、局限され
た現象だけを述べたのでは多分
して得るもの多しという結果にな
つてしまふのである。そんな点よ
り今回の記録の中で、かいつの研
究が記録としてほゞまじり見せ
ていた。目的、内容、結果を整理
されていたし、成長の記録をそれ
ぞれの变化の段階に応じて原本と
して実物を割ってあったのは遊興
性があり、一世代を観察するとい
う小学校中卒年の観察学習の使命
に見事に忠実なもので思ふ。又
低学年で観察の観察が印象に残っ
ている。技術的には此の年令では

むしろ刻々目を見まわす必要
が小学校低学年で早急に身
につけるべきものである。従つ
て文章も短く、図形も印象的
を以て思ふ。比較考察より自
己中心のものの見方を止む
を得ない。然し、その中で、
う教える。という立場の教師が
深く考へるならば、結果は結果と
して尊重する暇を養う事が出来
るであらう。その結果は、おし
おし、おし、種の本、等の実
証的保存の段階で実を述べ事に
なるのである。

「標本の部」を 審査して

副部長 牛島竹利

本年度は全般的に見ると、標
本類は出品が少なく、かつたよ
うです。それだけに質的には大
致よいものが多かったように思
つた。ただこれからは、標本を
たてつけから標本を作られる際
に次のような点に注意した
りよと思われれば、少し書き
ておきたいと思つた。
① 標本を作る時にその目的を
しっかりと持つて作るよう
に。
生物の標本にしては、若石の標
本にしては、目的が、ただ
集めればよいという考へ方が
多いように思ふ。私は、僕は、
これは目的のために植物を集
つた。又若石を集めたとい
うことが必要です。若石集め
などには取つた場所が大切な
のです。場所のない若石はた
だ集めたというだけで意味が
ありません。この点に注意し
ましょう。

② 標本の整理について考へて
更ましう。
色々のずりしものがあり
ますが、その整理を研究する
必要がありませぬ。植物の採
集されたならば、ただ押し
葉を作るのではなく、そこに
一つの考へを入れ、整理し
て下さい。
③ 標本は大きなものが必要で
す。
全般的に標本が小さく、見え
づらく研究する時に、わかりに
くいものがあります。又残念
な事ですが、まだ植物の標本に
根がついていないものがあり
ます。標本は後で必要の時
に、根を研ぎで、大抵は資料
です。その意味を考へて欲し
いのです。
④ 保存に充分注意するよ
うにして欲しい。
ほくく作つた良い標本に対
して保存に十分注意して欲しい
等。

理科学習と

理科作品展に思ふ
五味 健

例年行なわれていた
作品展は、なにか、
足りない感を受けるの
は、わたし一人だけだろうか。
その原因がどこにあるかはこ
ろろと、理科学習との関連性
はどうか。
承しての関連性があるのか、当然
あるはずである。標本、研究記
録、そして工夫作品にして、理
科と結び合わせた指導がある
し、しかし、指導が作品展を
に置いて指導をなされては、
指導がなされては、

まして時間数の少ない現状にお
いておやである。結局、この指
導が自由研究という立場でな
されたり考へられるが、ここに
巨題はある。単にクラブ活動
や夏休みの課題としての扱ひは
無意味である。もっとそれ以前に
なすべきことがあるのではない
か。
理科教育というものが、「科学
的考察」か、「実験観察」
云々というように、大切なこと
ではあるが、それだけが全
てではないように思ふ。そこで、
作品展と関連させるならば、も
っとその表現活動を取り入れた
り。

言ひかえるならば、子どもの創
造性を理科という立場で伸ばす
べきである。それは、図工科に
おける意味とは当然異なると思
つたが、もっと指導計画の中に
取り入れ、どこまで伸ばしてい
くかを考へたい。例へば、製
作する教材の場合、単に教
科書通りに作るのではなく、ど
う作つた最も良いかを考へたり
、作つたり、そして考へること
をしたらどうか。
争奪競争は勿論大切であるが
科学には「ゆめ」があるはずで
ある。そこに創造性も生まれる
のではないかと思ふ。
また反面、教師の「ゆめ」は
どうだろうか。なにかその如
く考へさせられる要因がありは
しないか、とも思つたのである。

まして時間数の少ない現状にお
いておやである。結局、この指
導が自由研究という立場でな
されたり考へられるが、ここに
巨題はある。単にクラブ活動
や夏休みの課題としての扱ひは
無意味である。もっとそれ以前に
なすべきことがあるのではない
か。
理科教育というものが、「科学
的考察」か、「実験観察」
云々というように、大切なこと
ではあるが、それだけが全
てではないように思ふ。そこで、
作品展と関連させるならば、も
っとその表現活動を取り入れた
り。



あなたの学校園 には どれだけの ありますか? 合併・花

- きく科 タンポポ・ノゲシ・チシ
- バリ・ニガナ・フキ・ハハコ
- ガラ・ハルシオン・ヒメジョ
- ン・ヤマアザミ・ヨモギ・ヨ
- メナ・オナモミ・メナモミ
- アキノキリンソウ・アキノ
- ガシ・コウマボウキ・ヒヨド
- リバナ・ペンゲングサ
- きさきさ科 ホタルアクロ・キキ
- ヨウ
- うり科 カラスワリ
- あひなえし科 オシロイ
- あかぬき科 ヤエムグラ
- あおばこ科 オオバコ
- ごまのはぐさ科 オオイヌノフグ
- リ・ムラサキサゴケ
- しき科 ホトケノザ・ウツボグサ
- ・オドリコソウ
- ひるがお科 ヒルガオ・コヒルガ
- オ・ハマヒルガオ
- りんどう科 リンドウ
- すいかずり科 ガマズミ
- つつじ科 ツツジ

十一月十六、十七日
会場 成田中学校 理科室
内容 物理 オンロスゴフ
を中心として
。生徒 植栽がレパ
ト作製
。天体を中心としたス
イド作製
講師 ヒンター協力員

十一月十六、十七日
会場 成田中学校 理科室
内容 物理 オンロスゴフ
を中心として
。生徒 植栽がレパ
ト作製
。天体を中心としたス
イド作製
講師 ヒンター協力員

十一月の
花作業
上旬
霜除け作り 並立 屋根面
香植球根の掘上げ 蒔き
タリ・ア・カンナ・アマリリ
ス・ジンジャ
中旬
フレイム植栽 夜間はコヒル
花木の板切り
播種 鉄瓶エリ(フレイム)
下旬
毛木の剪定 落葉あつめ
庭土つみ
秋播草花の苗の間引・追肥
水まき(ばい) 根のびてくる

観察
。キクの花のしくみ
。キクの花の種類
。葉の落ちる木と落ちない木
。黄葉と紅葉
。冬をおかえて、草花のようす
。庭がおりると草の葉がどのよ
うになるかを観察する。
。夏の頃の虫が、どうなつてい
るかしりやる

編集後記
▲素人のこのりその知りずの編
集・送付のりご指導を
▲ご意見ご感想その他原稿は手
務局の方へ
▲次号は、果教研等を中心に、